



Title	進行中のイベントを表す《estar+過去分詞》の分析 ： イベント構造のシフトに関する一考察
Author(s)	手塚, 進
Citation	Estudios Hispánicos. 2023, 47, p. 69-103
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/98069
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

進行中のイベントを表す 《estar+過去分詞》の分析 ——イベント構造のシフトに関する一考察——

手 塚 進

1. 導入

本稿は、スペイン語の《estar+過去分詞》の意味論的特徴を論じるものである。《estar+過去分詞》とは、補助動詞 *estar*¹ と、本動詞の過去分詞形によって構成される形式を指す。その主な機能は、本動詞が表すイベントの結果を表すことである^{2,3}。

《estar+過去分詞》の例として (1 a) と (1 b) を見よう。(1 a) の *está explicada* と (1 b) の *están cerradas* が、この形式に該当する⁴。

- 1 *Estar* は補助動詞としてだけでなく、主語名詞句と形容詞句ないし前置詞句をつなぐコピュラ動詞としても機能する。例えば (i) では、*estar* が主語 *Pablo* と形容詞 *enfermo* を、(ii) では *Pablo* と前置詞句 *en la estación* をつないでいる。

(i) *Pablo está enfermo.* 「Pablo は病気だ」

Pablo.MAS.SG estar.PRES.3 SG 病気だ. MAS.SG

(ii) *Pablo está en la estación.* 「Pablo は駅にいる」

Pablo.MAS.SG estar.PRES.3 SG ～に art 駅

Estar 以外に、コピュラの機能を果たす動詞として *ser* がある。両者は意味や文脈に応じて厳密に使い分けられており、両者の使い分けに関する膨大な研究がなされてきた。おおむね、前者が主語の一時的状態を表し、後者が恒常的性質を表すとされている。

- 2 《estar+過去分詞》が結果を表すという指摘は、ASALE (2009)、Yllera (1999)、Gili Gaya (1980) など広く見られる。
- 3 本稿では「イベント」を広く定義する。イベントは動詞一般が表す状況すべてを含むものであり、Smith (1997) の *Situation* や、Bach (1986) の *Eventuality* に相当する。したがって、動的な状況（「叩く」「走る」「食べる」など）だけでなく、動きや変化のないもの（「属する」「知っている」「哺乳類である」など）もイベントとみなされる。
- 4 すべての例文に付けられるグロスと日本語訳は、特に断りのないかぎり、筆者によるものである。

- (1) a. La lección diez ya *está explicada*.⁵
ART 課. FEM.SG 10 もう *estar*.PRES.3 SG 説明する. PART.FEM.SG
「第 10 課はもう説明されています」
- b. Las puertas *están cerradas*.⁶
ART ドア. FEM.PL *estar*.PRES.3 PL 閉める. PART.FEM.PL
「ドアは閉まっています」

(1 a) は、*la lección diez*「第 10 課」がすでに説明され終わっていることを表している。同様に (1 b) は、*las puertas*「ドア」がすでに閉められてしまった後の状態を示している。そのため、この形式は確かにイベントの結果を表しているように見える。

ところが、この形式の中には、一見すると本動詞のイベントが終わっておらず、むしろ進行中であるような例もある。たとえば、(2 a) や (2 b) である。

- (2) a. El garaje *está vigilado por el guarda*.⁷
ART 車庫. MAS.SG *estar*.PRES.3 SG 監視する. PART.MAS.SG によって ART 守衛
「車庫は守衛によって監視されている」
- b. La ciudad *está protegida por los ciudadanos*.⁸
the city is protected by the citizens
‘The city is protected by the citizens.’

(2 a) は、*vigilar*「監視する」のイベントが終わっていることを表しているわけではない。むしろ、いまガレージが監視されている最中であることが含意される。同じように、(2 b) もまた、現在市民によって町が守られているので、*proteger*「守る」の表すイベントが進行しているように見える。

5 Gómez Torrego (1988: 189).

6 ASALE (2009: §28.16 d).

7 Gómez Torrego (1988: 189).

8 García-Pardo (2017: 30). グロスと英語訳はそのまま抜粋。本稿と無関係な部分を適宜取り除いた。

本稿の分析対象は、このように、本動詞イベントが発話時において進行しているように解釈できる《estar+過去分詞》である。以下では、この解釈を「進行解釈」と呼ぶ。先行研究はこうした用例を「同時行為⁹を表すもの」として一様に扱っているものの、その中には従来どおり「イベント終了後の結果」として記述できるものが含まれている。本稿の目的は、一見すると同時行為に見えてしまう用例の一部について、これらが従来の記述で事足りることを示すことである。

本稿の構成は次のとおりである。2節では、進行中のイベントを表す《estar+過去分詞》に関する先行研究の記述を確認し、問題の所在を明らかにする。3節では、本稿が採用するアプローチであるイベント構造理論を概説する。4節では、2節で示される問題点に対する代案を示し、その妥当性を例文とともに検証する。5節で結論を述べる。

2. 先行研究

2.1 《estar+過去分詞》の進行解釈に関する記述

《estar+過去分詞》が進行中のイベントを表しうことは、多くの研究において指摘されている。たとえば Roca Pons (1958)¹⁰ や Yllera (1999)¹¹ は、永続的なイベントを表す述語が本動詞である場合に、進行中のイベントを表すと述べている。また、Mendikoetxea (1999: 1625) や ASALE (2009)¹² は、

9 「同時行為」は «acción simultánea» の拙訳。

10 “¿Qué es lo que determina que un verbo imperfectivo pueda emplearse con *estar*? A nuestro juicio es su relación con la idea de estado, sobre todo. Siempre que nos es dado fijarnos con preferencia en la situación o resultado simultáneo causado por la acción transitiva imperfectiva, más que en la acción misma, el empleo de *estar* está justificado.” [Roca Pons, 1958: 253]. 下線は筆者による。

11 “Con predicados permanentes que designan ‘actividades’ [...], la perífrasis con *estar* designa el resultado de una acción simultánea a la época del auxiliar : [...]”

a. El banco está vigilado por la policía.

b. La asociación está dirigida por un grupo de amigos.

c. En el sondeo realizado el pasado mes de diciembre por Sefes, que está integrada por cerca de 10.000 empresas, ... [...]” [Yllera, 1999: 3430].

12 “Admiten «*estar* + participio», [...] varios verbos que expresan estados locativos, como *rodear*, *circundar*, *preceder*, *seguir*, *encabezar*, *coronar* (*La ciudad estaba rodeada de murallas*; *El libro está encabezado por un prólogo*; *La cima está coronada por una cruz*), así como otros que denotan rasgos relativos a las propiedades ↗

当該形式がイベント終了後の状態を表すとしながらも、意味的に位置や構成を表す場合は例外としている。

また、過去分詞だけで進行中のイベントを含意しようと指摘する研究もある。Di Tullio (2008: 111-113) は、未完了動詞が過去分詞形になると、イベントの開始時点から後の状況が指示されるため、イベントの進行を表すと述べている¹³。Bosque (1999: 293-294) は、イベントの内容が均質的な場合には、過去分詞がイベントの進行を含意するとしている。Bosque (2014) では、過去分詞には英語の現在完了のような要素 (Hidden HAVE) が含まれており、これによってイベントが進行しているように見えると述べている。このように、この現象は広くスペイン語学者の注目を集めてきた。

さて、これらの当該形式に関する記述の中でも、本稿がとりわけ注目したのは、《estar + 過去分詞》と進行形との関係である。進行形とは、補助動詞 *estar* と本動詞の現在分詞によって構成される形式であり、概ね英語の《be + 現在分詞》に相当する (3.4 節で詳述)。一部の研究によれば、《estar + 過去分詞》によってイベントの進行が含意されることは、話し手や聞き手の直感だけでなく、進行形へのパラフレーズによっても支持されるという。

この点について、以下では Gómez Torrego (1988)、Fábregas et al. (2017)、De Miguel (2001) の記述を確認する。Gómez Torrego と Fábregas et al. は、《estar + 過去分詞》が進行形とパラフレーズでできることから、この形式がイベントの進行を表すとしている。一方で De Miguel は、それとは異なる立場をとっている。

↘ constitutivas de las personas o las cosas: *estar* {*compuesto* ~ *constituido* ~ *formado* ~ *vertebrado*} *por*...; su origen o su razón de ser: *estar* {*causado* ~ *determinado* ~ *influido* ~ *motivado* ~ *ocasionado* ~ *originado* ~ *provocado* ~ *sugerido*} *por*...; o la forma en que se muestran: *estar* {*adornado* ~ *cubierto* ~ *habitado* ~ *ocupado* ~ *presentado*}.” [ASALE, 2009: §28.16 e]

13 “Aunque los verbos atéticos, como los de (20 c) [=el delincuente buscado, un barrio vigilado, los testigos protegidos], no están inherentemente delimitados, el participio delimita la acción designada por el verbo en su fase inicial. [...] los de (20 c) corresponden a verbos atéticos, que indican algún tipo de actividad en que el argumento interno está involucrado sin que sea previsible su final o un cambio que lo afecte. La delimitación no la tiene el verbo ni se la aporta el participio; así, un delincuente puede ser buscado indefinidamente; del mismo modo, un testigo puede recibir la protección de la justicia, un barrio, la vigilancia policial, sin fijar necesariamente un término, aunque sí un comienzo.” [Di Tullio, 2008: 111-112]. 下線は筆者による。

2.2 進行形への言及例

a) Gómez Torrego (1988)

Gómez Torrego によれば、《estar + 過去分詞》にはアスペクト的機能が二種類ある。一つはイベントの完了状態アスペクトを表すことであり、その例として冒頭の (1 a) を提示している。もう一つは未完了アスペクトを表すことであり、(3 a, b) が該当する。こうした未完了アスペクトは、本動詞が未完了動詞の場合に表れるという¹⁴。

- (3) a. [= (2 a)] El garaje está vigilado por el guarda.
ART 車庫. MAS.SG estar.PRES.3 SG 監視する. PART.MAS.SG ~によって ART 守衛
 「車庫は守衛によって監視されている」

- b. El mundo está gobernado por Dios
ART 世界. MAS.SG estar.PRES.3 SG 治める. PART.MAS.SG ~によって 神
 「世界は神によって治められている」

《estar + 過去分詞》の未完了アスペクトというのは、本稿が注目するイベントの進行のことであると考えられる。

また Gómez Torrego は未完了アスペクトの《estar + 過去分詞》は進行形でパラフレーズできると述べ、(3 a) のパラフレーズとして (4) を提示している。

- (4) El guarda está vigilando el garaje.
ART 守衛. MAS.SG estar.PRES.3 SG 監視する. GERUND ART 車庫. MAS
 「守衛は車庫を監視している」

Gómez Torrego の記述は (A) のようにまとめられる。

- (A) イベントの進行を表す《estar + 過去分詞》の本動詞は、未完了動詞に限られ、この場合には、進行形とアスペクト的に対応する。

14 「未完了」は imperfectivo の拙訳だが、その定義は見当たらない。本稿では Bello (1995: §625) の verbos imperfectivos と同じであるとする。

さて、(A) はもっぱら未完了動詞のことを記述している。そのため、完了動詞が本動詞である場合にも進行形との対応関係がありうるという事実が捉えられていない。このことは、本節 c) で De Miguel (2001) の記述を確認するときに詳述する。

b) Fábregas et al. (2017)¹⁵

Fábregas et al. は、*gobernar* 動詞という動詞グループを提唱して、それらが《*estar*+過去分詞》の形式で現れると進行中のイベントを表すと述べている¹⁶。

gobernar 動詞とは、(B) の意味を表す動詞のことであり、例として (5) があげられている。

(B) 動作主が、ある状況が変わらないようにコントロールするような行動。未完了的なイベントである¹⁷。

- (5) *aguantar* ‘bear’, *mantener* ‘maintain’, *sostener* ‘support’, *sujetar* ‘hold’, *sustentar* ‘support’, *conservar* ‘preserve’, *cuidar* ‘take care’, *guardar* ‘keep (safe)’, *preservar* ‘protect’, *proteger* ‘protect’, *resguardar* ‘protect’, *controlar* ‘control’, *coordinar* ‘coordinate’, *dirigir* ‘direct’, *gobernar* ‘govern’, *presidir* ‘head’, *supervisar* ‘supervise’, *vigilar* ‘oversee’, *bloquear* ‘block’, *evitar* ‘avoid’, *impedir* ‘prevent’, *inhibir* ‘inhibit’, *prohibir* ‘forbid’¹⁸

gobernar 動詞を本動詞とする《*estar*+過去分詞》は、受動態進行形 (3.4 節を参照) でパラフレーズ可能であると述べ、その例として (6 a, b) を示し

15 García-Pardo (2017: §3.2) も参照されたい。この研究も、進行解釈の《*estar*+過去分詞》について、(i) 動作主の意志によって維持されている状況を指示し、(ii) 本動詞が未完了動詞の場合にみられる現象であると結論づけている。

16 “In the case of the *gobernar*-verbs, the *estar* + participle has the meaning of an ongoing situation, not a result following a telic action. They can frequently, indeed, be paraphrased by the progressive form of the passive verb [...] —itself a stativizing construction—without change in meaning [...]” (p.465).

17 “[...] considered a controlled action of keeping a situation unchanged [...]” (p.454), “action of maintaining a situation unchanged [...]” (ibíd.).

18 英語訳は引用元から抜粋。

ている。

- (6) a. España está gobernada por incompetentes.¹⁹

Spain is ruled by incompetents

‘Spain is ruled by incompetents.’

- b. España está siendo gobernada por incompetentes.

Spain is being ruled by incompetents

‘Spain is being ruled by incompetents.’

さて、(B)にある通り、Fábregas et al. は *gobernar* 動詞を未完了動詞とみなしている。しかしながら、提示された例のうち、少なくとも (7) については、未完了動詞とは言い難い。

- (7) *sujetar* ‘hold’, *conservar* ‘preserve’, *guardar* ‘keep (safe)’, *presidir* ‘head’,
bloquear ‘block’.

これらの動詞は、状態の前に何らかの行為が含意されている。たとえば *guardar* 「保管する」であれば、まずある物をどこかに入れる動作があり、それを同じ場所にしまっておくというような状況が想像できる。例えば (8) において *guardar* の点過去形 *guardó* は「仕舞った」という動作を表していると考えられる。文脈は脚注に示されている。

- (8) Luego *guardó* el cuchillo a la izquierda, debajode-l volante.

その後 保管する. PAST.3 SG ART ナイフ 〜に ART 左 下に 〜の-ART ハンドル

「その後彼はナイフを左に、ハンドルの下に仕舞った」²⁰

19 (6 a, b) のグロスおよび英語訳は Fábregas et al. (2017: 464) のまま。

20 CREA より抜粋。文脈は次の通り： “El taxista, calvo, robusto, rotundo como un arma, dijo luego, con los ojos bien abiertos : “Y si usted se encontrara con alguien que fuera más violento que yo y usted le dijera que la gente no quiere a Netanyahu, probablemente le sacaría un cuchillo como éste. ¿Y qué pasaría? No pasaría nada. ¿Quién iba a decirle nada?”. Luego *guardó* el cuchillo a la izquierda, debajo del volante.”
『武器のようにハゲで頑丈できっぱりとしたタクシー運転手はその後、目をしっかりと見開いてこう言った「もしあなたが私よりも凶暴な人に会って、あなた」

そのように考えると、guardar を本動詞とする《estar+過去分詞》は、従来どおりイベント終了後の結果を表していることになる。例えば、(9)は「ハンドル下のスペースにナイフを仕舞う」という行為の結果であるといえる。

- (9) el cuchillo está guardado a su izquierda.
ART ナイフ. MAS.SG estar.PRES.3 SG 保管する. PART.MAS.SG ~に 彼の 左
「ナイフは彼の左にしまっている」

(7) のその他の動詞についても、同様のことが指摘されうる。つまり、未完了動詞としてではなく、(8) の guardó のように、完了動詞として解釈されうるのである。

c) De Miguel (2001)

De Miguel は、本動詞のイベントが特徴 (C) および (D) を有するならば、《estar+過去分詞》は進行形でパラフレーズ可能であると述べている。

(C) イベントが State を表し、それが Transition に後続すること²¹。

(D) State が動作主によって維持されていること。

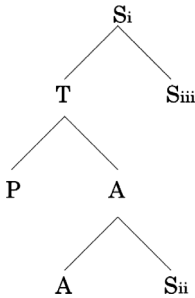
このイベントの構造を、De Miguel は (E) のように規定している。

(E) 《estar+過去分詞》を許すイベント構造²²

「が人々が Netanyahu を好きじゃないと言ったら、きっとその人はあなたにこのナイフみたいな刃物を向けるでしょう。何が起るか？何も起こりません。誰があなたに何か言うものですか？」その後彼はナイフを左手のハンドルの下にしまった」

- 21 State は状態のこと。Transition とは、変化を含むイベントのことである。たとえば cerrar la puerta 「ドアを閉める」は、la puerta 「ドア」が no cerrada 「閉まっていない」状態から cerrada 「閉まっている」状態に移行するので、Transition である。
- 22 S、P、T、A はそれぞれ State、Process、Transition、Achievement の略である。下付きの記号は、それぞれが表示内の異なる要素であることを示す。(E) は次のように言語化される：「このイベントは S_i として定義される。S_i は次のような下位イベントを有する。まず P (動きや変化のある行為) が始まり、A 時点まで達すると S_{ii} が生じる。S_{ii} は動作主の働きかけによって、S_{iii} として維持される」。S_{ii} と S_{iii} は、事実上同じ状態を指示すると考えられる。

進行中のイベントを表す《estar+過去分詞》の分析（手塚）



また、進行形のパラフレーズ例として（10）と（11）をあげている。（10 a）と（11 a）が《estar+過去分詞》で、（10 b）と（11 b）がそれらのパラフレーズである。どちらの例でも《estar+過去分詞》が受動態進行形になっており、どちらも意味的に同じである。

（10） a. El camino *está* cortado por los manifestantes.²³

ART 道 MAS.SG *estar*.PRES.3 SG 塞ぐ. PART.MAS.SG ~によって ART デモ参加者
「道はデモ参加者によって塞がれている」

b. El camino *está* *siendo* cortado por los manifestantes.

estar.PRES.3 SG *ser*.GERUND 塞ぐ. PART.MAS.SG

（11） a. Cisjordania *está* ocupada por el ejército.

ヨルダン川西岸. FEM.SG *estar*.PRES.3 SG 占領する. PART.FEM.SG ~によって ART 軍隊
「ヨルダン川西岸は軍隊によって占領されている」

b. Cisjordania *está* *siendo* ocupada por el ejército.

estar.PRES.3 SG *ser*.GERUND 占領する. PART.FEM.SG

De Miguel は、進行形でパラフレーズできることが、《estar+過去分詞》に動態性（dinamicidad）があることを傍証しているとしている。しかし Fábregas et al. と異なり、進行形がイベントの進行を表すとは述べていない。むしろ

23 （10）と（11）は De Miguel（2001）より、適宜修正して抜粋。

ろ、《estar+過去分詞》は Transition 後の State を指示し、それが進行形とパラフレーズ可能であるという記述を踏まえれば、De Miguel は進行形が「イベント終了後の結果状態」を指示するとみなしているといえる。

さて、以下では De Miguel の記述に関して二つ指摘する。

一つは、イベント構造 (E) 内部に P と S_{iii} (本稿における「過程局面」と「結果残存局面」のこと。定義は 3.1 節を参照) があり、どちらも進行形によって指示される可能性があることである。4.4 節で確認するように、進行形が指示しうる局面は P だけに限られず、動詞によっては S_{iii} が指示される場合もある。さらに、一般的に進行形は動的な状況を指示する形式であるため、P よりも静的な S_{iii} が指示される場合には、何らかの動機があるはずだが、その説明はない。本稿では、こうした構造的問題の解消を試みる。

もう一つは、イベントの進行を表す《estar+過去分詞》の本動詞のすべてが T を内蔵していると考えるのは無理があるということである。特に *vigilar* 「監視する」のように、先行する動作や行為が想定しづらいイベントについては、T を想定することが難しい²⁴。もし当該形式の成立要件が (C) (D) なのであれば、T を仮定する根拠が必要になる。この問題について、本稿はひとまず保留し、T を仮定しやすい動詞についてのみ分析する。

2.3 まとめ

《estar+過去分詞》に関するこれまでの議論を整理しよう。

- i 進行形とのパラフレーズは、《estar+過去分詞》がイベントの進行を表すことの傍証として考えることができる。(Gómez Torrego, Fábregas et al.)
- ii しかしながら、進行形がイベント終了後の結果状態を表すこともあるため、(i) がすべての場合に当てはまるわけではない。(De Miguel)
- iii ただし、《estar+過去分詞》が結果を表すからといって、すべての本動詞のイベント構造に Transition が必要とされると仮定することもまた、客観的な言語事実を捉えられていない。
- iv また、De Miguel の提案するイベント構造 (E) には、進行形が焦点化しうる要素が二つあるため、どちらが選択されるのかが決まる仕組み

24 このことは、すでに高垣 (2014) で指摘されている。

が必要である。

- v とはいえ、先行研究で未完了動詞として分析されていた動詞のうち、いくつかは Transition を含む完了動詞として分析できる。

イベントの進行を表す《estar+過去分詞》の記述研究は、概ね (i)、(ii)、(iii) のせめぎ合いの解消に苦慮してきたといえる。

本稿は、(v) のように考えることのできる動詞だけを分析し、どのようなイベント構造を想定すればよいのかを提案するものである。

3. イベントの構造

本節では、動詞一般が表すイベントの時間的構造を定義する。これにより、イベントの「進行」や「結果」を明確に定義できる。

3.1 イベント構造理論

この理論は、動詞の意味を形式化することを目的としている。動詞の表すイベントは抽象的かつ多種多様であるが、たとえどんなイベントであれ、時間の流れに沿ってどのように進展していくかについては、共通の基準を用いて規定することができる。本稿では Smith (1997) を参考にして、イベントの時間的構造を (F) のように形式化する²⁵。

(F) イベントの時間構造²⁶

Init	Comp	Term		
開始時点	過程局面	完了時点	結果残存局面	終止時点
→	→	→	→	→

→ → → 時間は左から右に進む → → →

この形式化にしたがえば、イベントは5種類の要素（開始時点；過程局面；

25 各時間的要素の詳細な定義や性質については Smith (1997) を参照されたい。開始時点、過程局面、完了時点、結果残存局面、終止時点は、Initial endpoint、Internal stages、Natural final endpoint（または Completion）、External stages（または Result stages）、Arbitrary final endpoint（または Termination）にそれぞれ対応する。

26 Init は Initial endpoint、Comp は Completion、Term は Termination の略。

完了時点；結果残存局面；終止時点）の組み合わせによって規定される。以下では、ponerse la camisa「シャツを着る」という表現を例に、それぞれの要素を説明する。

a) 開始時点：

イベントが始まる時点である。シャツを着るのであれば、腕を袖に通すことが該当するだろう。もし「私はボタンを留めてからシャツを着るんだ」という人は、ひとつ目のボタンを留める時点を開始時点と考えてもよい。

イベントが始まるタイミングについては、話者によって判断が割れるかもしれないが、それは一向に問題にならない。ある人によっては、ハンガーを手にとった瞬間から「シャツを着はじめた」と言えるかもしれない。判断には個人差があるし、文脈によっても変化するだろう。いずれにしても、イベントが生じるためには始まりの時点がなくてはならず、その際には（F）の順番が守られなければならない。

b) 過程局面：

さて、イベントが開始時点を過ぎると、そこから「過程局面」が続く。過程局面では、イベントの核となる一連の動作や行為が進展する。シャツを着る際には、両腕を袖に通すことや、いくつかのボタンをとめるなどの行為が該当する。このプロセスは一瞬で終わるものではなく、一定の時間を要する。

c) 完了時点：

最後のボタンをとめたら、シャツを着終わったことになるが、この瞬間が「完了時点」である。完了時点は、イベントが必然的にもっている時点であり、この時点に達すると、過程局面は終わらなければならない。なぜなら、シャツを着る行為はすでに完了してしまったからである。これ以上のこと（たとえば、シャツのシワを伸ばしたり、襟をきれいに整えたり）をしたとしても、それで「シャツを着続けた」とは言えない。

d) 結果残存局面：

さて、無事にシャツを着終わったら、その後にはシャツを身にまとっている状態が続く。これが「結果残存局面」である。この局面は、主体がシャツ

を脱いでしまう時まで続く。

e) 終止時点：

そして、主体がシャツを脱いでしまえば、それが「終止時点」である。

さて、以上の時間区分を（G）にまとめた。ponerse la camisa のイベントは、このように区分される。

（G）ponerse la camisa 「シャツを着る」のイベント構造

開始時点	シャツを着はじめた時点
過程局面	シャツを身に付けている最中
完了時点	シャツを着終わった時点
結果残存局面	シャツを身にまとっている状態
終止時点	シャツを脱いでしまった時点

イベントをどこで区分するのは直感によるところが大きく、細かい判断には個人差も出るだろう。しかし、（F）で示された5種類の時間的要素によってイベントの構造を規定することに問題はないと考える。

3.2 動詞分類²⁷

時間構造（F）は、すべてのイベントに共通するものではない。ある動詞のイベントには完了時点がないかもしれないし、ある動詞には過程局面が設定できないかもしれない。本節では、動詞を四分類し、それぞれのイベントに時間構造を定義する²⁸。

27 動詞分類がスペイン語の構造にどのように表れるかについては De Miguel (1999) を参照されたい。

28 分類や基準は Smith (1997) に基づく。なお Smith (1997: §2.4.3) は Semelfactive という分類を設定している。これは変化を伴わない一瞬の動作を表すイベントである。本稿では、一瞬で完結するイベントという意味で、これらの動詞を到達動詞として扱う。

a) 活動動詞

活動動詞は、(H) の時間構造をもっている。correr「走る」を例に、イベントの構造を確認しよう。

(H) Init Term
 開始時点 過程局面 終止時点

誰かが走る場合、走りはじめるタイミングが必ずあるが、その時点を開始時点とする。開始時点のあとは、主体が足を動かして速いスピードで動いている「過程局面」が続く。やがて主体は走るのを止めるが、その時点が「終止時点」である。

さて、走り終える時点が「完了時点」ではなく「終止時点」であることに注意されたい。「走る」という行為には必然的な時点が存在しない。一度走り出してしまえば、体を痛めたり疲れたり眠くなったりしない限り、いつまでも走ることができる。またその反対に、たとえ 10 メートルという短い距離であっても、走るという行為は成立する。他の活動動詞についても同様で、構造内に完了時点は存在せず、イベントが終わる時点は常に終止時点として規定される。二つの時点の言語的区別については 3.3 節で論じる。

また、活動動詞には「結果残存局面」も存在しない。なぜなら、走った後に必然的に残る結果や状態はないからである。現実には、走ることで疲れたり喉が渇いたり汗をかいたりするかもしれないが、それは文脈や経験、あるいは世界知識に基づく推論であり、言語の体系とは関係がないと考える²⁹。

このような時間構造をもつ典型的な動詞として、cantar「歌う」や caminar「歩く」、empujar el carro「カートを押す」などがあげられる。

b) 達成動詞

次に達成動詞の時間スキーマ (I) を確認しよう。

29 結果残存局面を欠くからといって、活動動詞が結果を表す文脈にまったく現れないというわけではない。Martínez Linares (2015) や Fábregas et al. (2017: 464) では、《estar+過去分詞》によってイベントの結果残存局面が焦点化される現象が示されている。ただし、これらの研究が一貫して論じているように、これは語彙的に結果残存局面が含まれているというよりも、文脈によって意味が再解釈（または矯正）された結果である。

- (I) Init Comp (Term)
開始時点 過程局面 完成時点 結果残存局面 終止時点

達成動詞の例としては、3.1 節で述べた *ponerse la camisa* が適切である。Term に（ ）が付されているが、その理由は、すべての達成動詞に終止時点を設定することはできないためである。例えば、*romper el vaso* 「グラスを割る」というイベントについて、「一度割れてしまったグラスが元通りになる」瞬間が来ることは想定しづらい。また、*matar a una persona* 「ある人を殺す」にも、被害者が生き返る瞬間など含意されていないだろう。このように、終止時点を設定する動機に乏しいイベントも少なからず存在する。

そのほかの達成動詞の例として、*sitiar el castillo* 「城を包囲する」、*hacer una tarta* 「ケーキをひとつ作る」などがあげられる。

c) 到達動詞

到達動詞は、*llegar al aeropuerto* に代表されるように、一瞬で生じるイベントを表す。したがって、(J) のような表示をもつ³⁰。

- (J) Comp
完了時点 結果残存局面

一瞬で生じるため、開始時点と完了時点は区別されない。ここではこの一時点を完了時点として表示しておく。この動詞クラスの例として、*encontrar el cartero* 「財布を見つける」、*desaparecer* 「消える」などがあげられる。

30 Smith (1997) は、到達動詞のイベントに Preliminary Stages 「準備局面」という局面を想定している。準備局面とは、イベントの開始に先行する局面であり、*llegar al aeropuerto* の例であれば、空港に向かっている時間が該当するだろう。その方法はタクシーかもしれないし、電車かもしれない。準備局面は、英語の *arrive* のような到達動詞が、*I am arriving at the top* のように Progressive で現れるときに指示される局面として言及されてきた (Rothstein (2004; §2) を参照)。本稿の関心はこの局面にはないため、イベントの表示から排除した。

また、理論上の立場から、達成動詞と到達動詞を区別しない研究もある。たとえば Verkuyl (1993) や Ramchand (2008) は達成動詞と到達動詞を区別していない。それに対して Mittwoch (1991) などは、両者の違いを指摘している。本稿ではこの問題に立ち入らない。

d) 状態動詞

最後に、状態動詞の表示を (K) で確認しよう。

(K) (Init) (Term)
 開始時点 過程局面 終止時点

一般的に状態動詞は、動きや変化のない静的な状態が続くことを表す。たとえば、*saber*「知っている」は何かの情報が頭の中にあることを表す動詞であり、過程局面はその情報を知っている状態を指す。そのため、(12) と言えば、Pedro がフランス在住であることを話し手が把握していることがわかる。

(12) Sé que Pedro vive en Francia.
 知っている. PRES.1 SG COMP Pedro.MAS 住んでいる. PRES.3 SG 〜に フランス
 「私は Pedro がフランスに住んでいると知っています」

また、Pedro のフランス在住が頭に入っているということは、その情報を見聞きした時点があるはずであり、それが開始時点である。さらに、その情報をずっと覚えているとも限らず、忘れてしまうこともあるだろう。その時点を終止時点とする³¹。

状態動詞の例として *amar a una persona*「ある人を愛している」、*ser español*「スペイン人である」などがあげられる。

31 状態動詞の開始時点と終止時点について。Smith (1997: 32) によれば、状態動詞にはこれらの時点が含まれない。その理由は、状態には動態性がなく、変化が生じるためには他のイベントの発生を必要とするからであるという。しかし、本稿ではこの立場をとらない。なぜなら、ある状態はなんらかの因果で生じたものであるからである。*saber* の場合であれば、ある情報を知っているのであれば、それをどこかで見聞きしたことになる。また、たとえその情報を覚えていたとしても、いつか忘れてしまうこともあるだろう。こうした事柄をふまえて、状態動詞には開始時点と終止時点が存在すると想定する。ただし、状態動詞の開始や終止は、他のタイプの動詞の場合よりも言語的に指示されづらいため、(K) では () で括ってある。

3.3 時間要素の指示

さて、前節まで見てきたイベント構造表示は、ただ単に直感で素描されたものではない。構造内の各要素（つまり、開始時点や結果残存局面などの要素）は、言語形式によって各々取り出して指示することができる。以下では、そのことを完了時点と終止時点为例に示す。

まず完了時点について。この時点は、所要時間を表す *en* 前置詞句によって指示される。例えば (13 a) のように、*en una hora* 「一時間で」が *leer el informe* 「そのレポートを読む」と共起すると、イベントの完了時点（すなわち、そのレポートを読み終える時点）に達するまでの所要時間を表す。一方で (13 b) の *leer informes* 「(複数の) レポートを読む」のように、完了時点のないイベントの場合には、所要時間の表現と共起しづらい。

(13) a. Pedro leyó el informe en una hora.³²

Pedro.MAS.SG 読む. PAST.3 SG DEF.MAS.SG レポート. MAS.SG ~で 1 時間. SG

「Pedro は一時間でそのレポートを読んだ」

b.# Pedro leyó informes en una hora.

Pedro.MAS.SG 読む. PAST.3 SG レポート. MAS.PL ~で 1 時間. SG

「(伝えたい意味) Pedro は一時間で (複数の) レポートを読んだ」

Leer informes のように完了時点がないイベントは、継続時間を表す *durante* 前置詞句と共起することで、イベントの終止が含意される。例えば (14) では、レポートを読み始めてから一時間後に読むのを止めたことがわかる。

(14) Pedro leyó informes durante una hora.

Pedro.MAS.SG 読む. PAST.3 SG レポート. MAS.PL ~の間 1 時間. SG

「Pedro は一時間 (複数の) レポートを読んだ」

イベント構造理論の特徴は、このように、イベントの構造によって言語表現の的確性を説明しようとするところにある。

32 (13 a, b) は De Miguel (1999: 3020) より抜粋。なお、(13 b) の記号#は De Miguel によるものであるが、これは再解釈によって別の意味で理解されうることを表していると思われる。

イベント構造と言語現象の関わりを示す別の例として、Pustejovsky (1991) の説明を示す。(15) を見てみよう。

(15) John almost built a house.³³

この文は多義である。多義が生じる原因は、副詞 *almost* が指示できる要素が二つあるためであると考えることができる。一つは開始時点であり、その場合には「ほとんど始めるところだ」のような解釈が得られる。もう一つは完了時点であり、その場合には「ほとんど終わるところだ」のように理解される。

このような多義性は、完了時点を欠くイベントでは生じない。たとえば (16) では、*almost* の解釈は「ほとんど走り始めるところだ」のようにしか解釈されない。

(16) John almost ran.

このように、構造内の各要素は、指示可能であることを理由に、その存在が保証される。逆に言えば、いくら直感的に完了時点や終止時点などがあるように思われても、何らかの言語形式によって指示されなければ、それらを構造内に仮定することはできない。

3.4 進行形

本稿では、補助動詞 *estar* と本動詞の現在分詞によって構成される形式を「進行形」と呼ぶ。また、現在分詞の部分に *ser* 受動形式が入る形式も、同様に「進行形」と呼び、両者を区別する際には前者を「能動態」、後者を「受動態」と呼ぶ。例えば、(17) は能動態進行形の例であり、(18) は受動態進行形の例である。受動態の場合には、本動詞の現在分詞形を直接入れるのではなく、本動詞を迂言受け身形《*ser* + 過去分詞》にしてから、補助動詞 *ser* だけを現在分詞形に変えることになる。

33 (15) と (16) は Pustejovsky (1991: 51) から抜粋。

- (17) Actualmente, el arquitecto está construyendo una residencia [...]

現在 ART 建築家. MAS.SG estar.PRES.3 SG 建てる. GERUND 一つの 宿舎. FEM.SG

「現在、建築家は一棟の宿舎を建てている」³⁴

- (18) [= (10 b)] a. El camino está siendo cortado

ART 道. MAS.SG estar.PRES.3 SG ser.GERUND 塞く. PART.MAS.SG

por los manifestantes.

～によって ART デモ参加者

「道はデモ参加者によって塞がれている」

進行形は時間幅のある局面から、その一部分を指示する形式であり、その局面は過程局面である場合もあれば、結果残存局面である場合もある³⁵。例えば、(17)は「建てる」過程局面を指示している一方で、(18)は「塞いだ」結果残存局面を指示している³⁶。

進行形の本動詞が達成動詞である場合には、イベント構造内に過程局面と結果残存局面があるため、どちらか一方が選ばれることになる³⁷。進行形は一般的に動的な状況を指示する形式であるため³⁸、通常は過程局面が優先されると考えられる。また、2.2 節 c) で述べたように、結果残存局面が指示されるためには、その局面に動作主の関与がなければならない。

構造内にどちらの局面も存在しながら、結果残存局面が指示される原因

34 CREA.

35 Maldonado (2006: 442-443) はスペイン語の進行形が結果状態を表すことが稀であると述べている。ASALE (2009: §28.12 c) は進行形が *situación no concluida* を表すとしているが、本稿では、この場合の *concluida* が完了時点だけではなく終止時点も指しうるものとする。

36 《estar siendo + 過去分詞》と《estar + 現在分詞》が同じ局面を指示するか否かは議論の余地があるものの、この発表では同じであると仮定する。《estar siendo + 過去分詞》を扱っている研究として Ramos (1972) や山村 (2001) などがある。

37 可能性として、進行形がイベント内部を指示する際には、過程局面と結果残存局面が意味論的に区別されないという考え方もありうる。その場合には、たとえ進行形が結果残存局面を指示していたとしても、それは前後の文脈によってたまたま語用論的にわかるにすぎないということになる。本稿は、その可能性を考えないことにする。

38 García Fernández (2009: §3.4) が動的性質 (valor dinamizador) と呼ぶ性質である。

は、4.3 節の構造的シフトによって説明される。

4. 提案

本節では、イベントの結果を表す《estar+過去分詞》が、なぜ進行形とパラフレーズ可能なのかについて論じる。

4.1 結果の定義

まずは、《estar+過去分詞》が表すとされる「結果」を定義する。本稿では、結果はイベント構造内の結果残存局面のことを指示すると考える。この定義の帰結として、完了時点を欠く活動動詞や状態動詞は、この形式と意味的にミスマッチであると考えられる。

4.2 達成動詞と活動動詞の揺れ

2.2 節 b) で述べたように、《estar+過去分詞》において進行解釈を受ける本動詞の中には、活動動詞らしく見えながらも、実は完了時点を含む達成動詞である場合がある。以下ではこうした動詞の例をいくつか見て、そのイベント構造を考えていく。まずは *dominar* 「支配する」について考える³⁹。

dominar には二種類の時間構造を与えることができる。ひとつは達成動詞として分析する見方である。この場合、時間構造は (L) のように捉えることができる。

(L) 達成動詞 *dominar* の時間構造

開始	支配する領域を広げはじめる
過程	支配領域を段々と広げていく
完了	支配領域を網羅してしまう
結果残存	領域は支配下にある
終止	支配が終わる

このような時間構造を仮定すれば、(19) のように進行形が過程局面を指示

39 *dominar* が示すこのような曖昧さは Roca Pons (1958) によって言及されている。

進行中のイベントを表す《estar + 過去分詞》の分析（手塚）

し、(20) のように《estar + 過去分詞》が結果残存局面を指示することが説明できる。

- (19) [...] las curvy *estamos* *dominando* poco a poco el street style.
ART curvy な estar.PRES.1 PL 支配する. GERUND 少しずつ ART ストリートスタイル
「curvy な女性たちがストリートスタイルを少しずつ支配している
[...]」⁴⁰

- (20) El territorio *cultivado* con coca *está* *dominado*
ART 領地. MAS.SG 耕された 〜で コカ estar.PRES.3 SG 支配する. PART.MAS.SG
por la guerrilla.⁴¹
〜によって ART ゲリラ
「コカの耕作領地はゲリラによって支配されている」

もうひとつは、活動動詞として分析する見方である。この場合には、段々と支配を広げていく過程にはスポットが当たらずに、支配が続いている局面がイベントのメイン局面になる。そのため、時間構造は (L') のように仮定される。

(L') 活動動詞 *dominar* の時間構造

開始	ある領域の支配が始まる
過程	領域は支配下にある
終止	支配が終わる

(L') を仮定すると、(21) において進行形が (L') の過程局面を焦点化していることが説明できる。

40 Sketch Engine. 斜体は筆者による。Curvy は文脈上「体型に丸みがあること」を表す英語からの借用語。

41 CREA.

- (21) El líder de-l mundial *está* *dominando*
 ART リーダー ~の-ART 世界大会 *estar*.PRES.3 SG 支配する. GERUND
 con mano de hierro no solo las carreras.
 鉄拳をふるって NEG だけ ART レース
 「世界大会のリーダーはレースだけを鉄拳をふるって支配しているわけ
 ではない」

このように、同じイベントを表す同音の動詞であっても、その解釈は活動動詞と達成動詞の間で揺れる可能性があることがわかる。以下では、こうした解釈の揺れが《*estar* + 過去分詞》の進行解釈を引き起こすことを示す。

4.3 構造的シフト：達成→活動

前節で示した活動動詞と達成動詞の間で揺れる動詞について、本稿ではこうした揺れをイベント構造のシフトとして分析する。つまり、もともと (I) の時間構造をもつ達成動詞が、(M) のような構造にシフトするのである。

(I) Init Comp Term
 開始時点 過程局面 完了時点 結果残存局面 終止時点

(M) IC Term
 開始・完了時点 結果残存局面 終止時点

このシフトにおいては、次のことが起こっている。まず、達成動詞の場合にイベントの核であった過程局面が背景化⁴²される。次に、その結果として、開始時点と完成時点はまるで同じ一点であるかのようにふるまうようになる。背景化された過程局面に代わってイベントの核となるのは、結果残存局面である。

42 本稿では詳しく論じないが、背景化が生じる原因は、語彙が増えすぎないようにするためであると考ええる。例えば、*dominar* のイベント構造は (L) と (L') が考えられるが、もし各イベントが別々の語彙で表現されるとしたら、覚えるべき語が一つ増えてしまうことになり、それは経済的ではない。背景化によるイベント構造シフトによって、このような語彙の増加を防ぎ、どちらのイベントも同じ語彙として覚えるだけで済む。

さて、こうしたシフトによって生じた構造（M）と活動動詞（H）を比べると、両者が類似していることがわかる。

（H）活動動詞

Init		Term
開始時点	過程局面	終止時点

（M）シフト後の達成動詞

IC		Term
開始・完了時点	結果残存局面	終止時点

つまり、《estar + 過去分詞》が進行解釈を受けているように見えていたのは、構造的シフトによってイベントの過程局面が背景化されてしまっていたためである。言い方を変えれば、たとえイベントの進行を表しているように見えても、指示されているのは結果残存局面であると考えられる⁴³。

進行解釈の《estar + 過去分詞》の研究において、達成タイプから活動タイプへのシフトについては言及されることがなかったように思われる。これに近い提案として、Roca Pons（1958）は「過去分詞の表す状態が、過去の出来事の結果なのか、進行中のイベントによって生じているのか、前後の文脈によって判断できないことがある⁴⁴」と述べているものの、両者の関係については言及していない。本稿は、達成イベントから活動イベントへの方向に生じるシフトを提案するものである。

また、日本語のテイル形式の研究である Igarashi et al.（1998）によれば、当該形式には、過程局面を指示する機能と、結果残存局面を指示する機能

43 このようなシフトが生じるきっかけは、《estar + 過去分詞》だけではない。Piñón（1999）や Egg（2005）は、(i) の for five minutes のような *Durative adverbials* が結果残存局面への指示を誘発すると指摘している。*Durative adverbials* による指示局面の変化が、本稿で提案される構造的シフトとどのような関係にあるのか（つまり、どちらの意味変更が先なのか、あるいは優先的に適応されるのか、など）については、この場では触れない。

(i) Rebecca opened the window for five minutes.

44 “[...] existe la posibilidad [...] de interpretar el valor del participio, ya como presente, ya como pretérito, por ejemplo, *está adornado, obligado*, etc., cuando las circunstancias de la frase no dejan indicado con precisión a cuál de las dos debemos atenernos.” [Roca Pons, 1958: 253-254].

と、イベントが過去に起こったことを表す機能の三種類があると説明している。本稿の構造的シフトは、二番目の機能に近いはたらきをするものの、(i) 一番目と三番目の機能を設定しないことと、(ii) シフトが特定の形式を必要としないという意味で、Igarashi et al. と異なる提案である。

4.4 構造的シフト仮説の適応例

こうした構造的シフトの可能性を踏まえて、《estar+過去分詞》がイベントの一局面を指示するようになるプロセスを考える。以下では次の動詞について、シフト仮説がどのように成り立つのかを検証する。

esconderse 「隠れる」、cortar 「切る、塞ぐ」、fijar 「固定する」、ocupar 「占める」

これらの動詞を選んだ理由は、2.2 節 c) で De Miguel (2001) によって提案されたイベント構造 (E) を仮定できる典型的な例と思われるからである。そのような動詞は他にもあるものの（例えば (7) で示した動詞）、網羅的な分析は本稿ではおこなわず、今後の課題としたい。

a) esconderse

esconderse は (22) のように「見つからないようにじっと息を潜めている」様子を描写できるため、イベントの過程局面はじっとしている局面だと理解できるかもしれない。つまり、(N) の時間構造を仮定できる。

(N) (22) における esconderse の時間構造

開始	誰かの目の届かない場所に着く
過程	その場に留まる
終止	再び見えるようになる

(N) を仮定することによって、(22) において進行形が過程局面を指示することが説明される。

進行中のイベントを表す《estar + 過去分詞》の分析（手塚）

(22) *Me estoy escondiendo de la policía.*

REFL estar.PRES.1 SG 隠れる.GERUND ～から ART 警察

「私は警察から隠れている」

もし *esconderse* の時間構造を (N) のように解釈すると、このイベントには完了時点や結果残存局面がないことになる。そのため、この局面を焦点化する機能をもつ《estar + 過去分詞》は、*esconderse* を受け入れないことが予測される。ところが、この動詞は同構文に問題なく受け入れられる。その際、焦点化される局面は (23) と同じ局面であるように見える。

(23) *Estoy escondido de la policía.*

estar.PRES.1 SG 隠れる.PART.MAS.SG ～から ART 警察

「私は警察から隠れている」

この矛盾を解決するために、(23) のような解釈がシフトの結果であると仮定してみよう。その場合には、(N') のイベント構造をもつ達成動詞 *esconderse* を仮定することになる。

(N') 達成動詞 *esconderse* のイベント構造

開始	姿が見えなくなり始める
過程	段々と見える部分が少なくなる
完了	完全に見えなくなる
結果残存	見えていない
終止	再び見えるようになる

(N') を想定すると、(24) の《estar + 現在分詞》が (L) の過程局面を焦点化していることを説明できる。(24) は、主語 *El sol* がまだ完全に姿を隠していない局面を表している。

- (24) El sol se está escondiendo tras los cipreses.⁴⁵
 ART 太陽 REFL estar.PRES.3 SG 隠れる. GERUND ~の後ろに ART ヒノキ. PL
 「太陽はヒノキの木々の後ろに隠れつつある」

この場合、同じような参与者で《estar+過去分詞》を作ると、焦点化される局面は結果残存局面であることがわかる。(25) では、太陽は完全に隠れてしまっている。

- (25) El sol está escondido tras los cipreses.
 ART 太陽 estar.PRES.3 SG 隠れる. PART.MAS.SG ~の後ろに ART ヒノキ. PL
 「太陽はヒノキの木々の後ろに隠れている」

つまり、escondirse には (N) と (N') のアスペクト解釈があり、(N) は (N') がシフトを起こしたことで生じたイベント構造であると考えられる。

b) cortar

cortar は、escondirse と同様に、文脈によって達成動詞解釈と活動動詞解釈の二つが考えられる。まず達成動詞解釈について考えよう。たとえば *cortar el árbol* 「木を切る」を例にすると、イベントは (O) のように進展していく。

(O) cortar 「切る」のイベント構造

開始	斧やノコギリなどで木に傷をつける
過程	傷をどんどん大きくしていく
完了	木が折れて2つに別れる
結果残存	別れたままになっている
終止	—

おおかたこのようなシナリオで、*cortar el árbol* という動詞句のイベントは進展するだろう。同様のシナリオが、別のモノを切る際にも想定できる。そ

45 CREA.

の場合、切られるものは本ではないかもしれないし、切るために使う道具が違ふかもしれない。とにかく、モノは二つの部分に別れ、イベントは（O）のように区分できる。

さて、（O）を当てはめても問題のない例を、以下でいくつか見ていこう。

- (26) Su pelo *está cortado* a la última en mechones
彼の 髪. MAS estar.PRES.SG 切る. PART.MAS.SG 最新風に 〜に 束
desparejos y coloreados.⁴⁶
不揃いな CONJ カラフルな
「彼の髪は不揃いでカラフルな束に最新風に切られている」

(26) では *cortar su pelo* という表現が《estar+過去分詞》の形式で現れている。髪はすでに切られてしまった後であるから、同構文は結果残存局面を焦点化しているといえる。次に、同様の時間構造を想定できる *cortar el tilo* 「ボダイジュを切る」が《estar+現在分詞》の形式で現れている例を見よう。

- (27) ¡Bandido!, ¡detengan -lo, *está cortando el tilo!*”
盗賊 捕まえる. IMP.3 PL ACC.3 SG estar.PRES.3 SG 切る. GERUND ART ボダイジュ
「盗賊だ！彼を捕まえて。彼はボダイジュを切っている！」

この文では、今まさに切っている最中の過程局面が描写されている。このように、過程局面が構造内に存在する場合には、《estar+過去分詞》と《estar+現在分詞》は異なる局面を焦点化することがわかる。

次に、*cortar* の補語が道路や線路の例を見ていこう。この動詞句は、道を人やモノが集まって塞ぐことを表す。この場合、《estar+現在分詞》であろうと《estar+過去分詞》であろうと、焦点化される局面は道が塞がれてしまった後の局面である。

たとえば (28) では、デモ参加者たちが線路を塞いでいる様子が描写されている。動詞は《estar+現在分詞》の形式で表れているものの、線路はすでに塞がれてしまっている状態であり、達成動詞解釈の結果残存局面と同様の

46 (26) (27) (28) は CREA から引用。

状況である。

- (28) Grupos de manifestantes *están cortando* las vías de
 団体 ~の デモ参加者 *estar.PRES.3 PL 塞ぐ.GERUND ART 道 ~の*
trenes de cercanías de Barcelona [...]
 電車 ~の 近郊 ~の バルセロナ
 「デモ参加者の団体はバルセロナの近郊電車の線路を塞いでいる」

《estar+過去分詞》も、同じ局面を指示している。(29) では、線路や道路はすでに塞がれてしまっている。

- (29) [= (10 a)] El camino *está cortado* por
 ART 道. MAS.SG *estar.PRES.3 SG 塞ぐ PART.MAS.SG ~によって*
 los manifestantes.
 ART デモ参加者
 「道はデモ参加者によって塞がれている」

ここで興味深いのは、道を塞ぐためには多少なりとも時間がかかるにもかかわらず、《estar+現在分詞》が *cortar* の過程局面（つまり、車の通れる幅がだんだんと狭められていく局面）を焦点化することなく、結果残存局面を指示することである。この観察からも、構造的シフトの結果、過程局面は言語構造的に存在しないものとして扱われるようになったと考えられるだろう。

c) *fijar* 「固定する」

次に、*fijar* の時間構造を考えよう。*fijar* は「何か不安定に動くものを固定する」イベントを描写する。時間スキーマは (P) のような達成動詞型で捉えることができる。

(P) 達成動詞 *fijar* 「固定する」 の時間構造

開始	不安定なものを固定しはじめる
過程	だんだん不安定さが減っていく
完了	完全に動かなくなる

進行中のイベントを表す《estar + 過去分詞》の分析（手塚）

結果残存	止まった状態である
終止	再び不安定になる

過程局面は進行形で指示できる。(30) では、看板を取り付けている最中の局面を描写している。

- (30) [...] mientras *está fijando* un letrero [...]
 ～間に *estar.PRES.3 SG* 固定する.GERUND ひとつの 看板
 「彼が一枚の看板を固定している間に [...]」

また、結果残存局面は《estar + 過去分詞》で指示できる。

- (31) [...] si la mesa o estantería *está fijada*
 もし ART 机 か 棚 *estar.PRES.3 SG* 固定する.PART.FEM.SG
 a la pared.
 ～に ART 壁
 「もし机か棚が壁に固定されていれば [...]」

一方、対象が止まった状態である局面をメインに表す表現として、*fijar la mirada*「視線を固定する」がある。この場合、進行形 (32) でも《estar + 過去分詞》(33) でも、視線はすでに固定されているため、同じ局面が焦点化されていると考えられる。

- (32) [...] los funcionarios de Estados Unidos *están fijando* la mirada en Brasil.
 ART 職員.PL ～の アメリカ合衆国 *estar.PRES.3 PL*
 固定する.GERUND ART 視線 ～に ブラジル
 「アメリカ合衆国の職員は視線をブラジルに向けている」

- (33) La mirada de-l chico estaba fijada
 ART 視線, FEM ~の-ART 男 estar.PAST.3 SG 固定する, PART.FEM.SG
 en la entrada de-l bar.
 ~に ART 入口 ~の-ART バル
 「男の視線はバルの入口に向けられていた」

さらに、似たような意味を表す *fijarse* 「見つめる」でも同様に結果残存局面が指示される。(34)において主体である男の視線は、参照時点ですでに他の女性 *otra* に定まっていると考えるのが自然だろう。

- (34) [...] un hombre que te interesa se
 INDEF.SG 男 REL 2 SG.DAT 気になる, PRES.3 SG REFL
 está fijando en otra.
 estar.PRES.3 SG 固定する, GERUND ~を 他の女
 「自分の気になる男が他の女を見つめている [...]」

つまり、*fijar* の場合でも解釈が二種類に分かれることがわかる。つまり、達成動詞のイベント構造 (P) がシフトすることで、*fijar la mirada* や *fijarse* のようなイベントの構造が生まれると考えれば、進行形と《*estar* + 過去分詞》が同じ結果残存局面を指示するのでパラフレーズが可能であることが説明される。

d) *ocupar*

今度は、ある場所を占有する意味を表す *ocupar* を分析する。*ocupar* のイベントは (Q) のように進展すると考えられる。

(Q) 達成動詞 *ocupar* の時間構造

開始	占有範囲を広げはじめる
過程	占有範囲を広げていく
完了	すべての領域を占有してしまう
結果残存	占有したままである
終止	占有がなくなる

過程局面があるため、《estar + 現在分詞》に現れると、だんだんと占める範囲を拡大していく局面が焦点化されることになる。この例では、電子サービスが商業分野で幅を広げていることが *está ocupando* で表現されている。

- (35) [...] el comercio electrónico *está ocupando*
ART 商売 電子 estar.PRES.3 SG 占有する.GERUND
 poco a poco cada vez más porcentaje de-l comercio total.⁴⁷
 少しずつ ますます 割合 〜の-ART 商売 全体
 「電子商取引は商売全体の割合を少しずつますます占めています」

また、《estar + 過去分詞》で現れれば、占有後の状況を指示することになる。

- (36) El dormitorio *está ocupado* por el enemigo.⁴⁸
ART 寝室.MAS.SG estar.PRES.3 SG 占める PART.MAS.SG 〜によって ART 敵
 「寝室は敵によって占拠されている」

ところが、同じように占有する意味であっても、進行形が完全に占領してしまった後の結果残存局面を指示する場合もある。以下の例では、スペインはバスクをすでに占領してしまった後であると考えられる。

- (37) Tu país *está ocupando* el nuestro [...]⁴⁹
あなたの 国.MAS.SG estar.PRES.3 SG 占領する GERUND ART 私たちの
 「君の国が私たちの国を占領していて [...]」

47 Sketch Engine.

48 CREA.

49 CREA.

例文の前後は次の通り：“Estoy de acuerdo con mucho de lo que dices. Pero se te olvida algo fundamental, Tú eres español, socialista pero español, y nosotros no. Nosotros somos vascos y socialistas. Tu país está ocupando el nuestro y sólo podremos tener buenas relaciones –¿por qué no?– cuando haya una frontera por medio”.『君の言っていることの多くに同意する。でも、君は根本的なことを忘れている。君はスペイン人だ。社会主義者だが、スペイン人だ。私たちは違う。私たちは社会主義者でバスク人だ。君の国は私たちの国を支配していて、私たちは良好な関係を築けるのは、国境が間にできたときだけだ』

占有後の状態が進行形によって指示される理由は、イベント構造内の過程局面が背景化され、シフトが起こったためであると考えられる。

4.4 まとめ

本節では、イベント構造のシフトに関する仮説について述べた。その適応例である *dominar*、*cortar la calle*、*fijar la mirada*、*esconderse*、*ocupar* は、達成タイプのイベント構造が活動タイプにシフトしたことで、進行形による結果残存局面の指示が可能になる。これらのイベントが活動動詞句のように見えてしまう理由は、こうした構造シフトによるものと考えられる。

シフト後のイベント構造において、進行形が過程局面を指示できない理由は、この局面が背景化されてしまうからである。このように考えれば、進行形が指示する局面が一つに絞れないという問題（2.3 節 iv を参照）が回避される。

5. 結論

本稿では、進行形とパラフレーズ可能な《estar + 過去分詞》について論じた。このパラフレーズは、当該形式がイベントの進行を表す証拠として示されることがあるものの、本稿はその説明を否定し、進行形と《estar + 過去分詞》の指示局面が一致する場合には、どちらも結果残存局面を指示すると結論づけた。進行形が結果残存局面を指示ようになるプロセスには、本動詞のイベント構造シフトが関わっている。とりわけ本動詞がもともと達成動詞である場合、イベント内部の過程局面が背景化されることで、時間幅のある唯一の局面である結果残存局面が指示されることになる。Fábregas et al. (2017) に限らず、《estar + 過去分詞》の進行解釈は、本動詞が活動動詞である場合に生じると述べる先行研究⁵⁰があるが、その理由は、活動動詞のイベント構造と、シフト後の達成動詞の構造が似ているためであると考えられる。

なお、達成タイプのイベント構造が想定されない活動動詞について、これらがなぜ《estar + 過去分詞》を許すのかは、本稿の考察範囲を超えるもので

50 Roca Pons (1958), Di Tullio (2008), Bosque (1999, 2014), García-Pardo (2017), etc.

あり、今後の課題としたい。関連する研究として高垣（2014）があげられる。

参考文献

- Bach, E. (1986) "The algebra of events," *Linguistics and Philosophy*, 9, pp.5-16.
- Bello, A. (1995) *Gramática: gramática de la lengua castellana destinada al uso de los americanos*, edición digital a partir de Obras completas. Tomo Cuarto, 3. ed., Caracas: La Casa de Bello [1. ed. publicado en 1847].
- Bosque, I. (2014) "On Resultative Past Participles in Spanish", *Catalan Journal of Linguistics*, 13, pp.1-37.
- De Miguel, E. (1999) "El aspecto léxico", en I. Bosque y V. Demonte (eds.), *Gramática descriptiva de la lengua española*, Espasa Calpe, pp.2977-3060.
- (2001) "Relazioni tra il lessico e la sintassi: Classi aspettuali di verbi ed il passivo in spagnolo", *Círculo de lingüística aplicada a la comunicación*, Núm. 8.
- Di Tullio, A. (2008) "Participios y adjetivos", en J. Pena Seijas & M. J. Rodríguez Espiñeira (eds.), *Categorización lingüística y categorías híbridas, Verba* (anexo 61), Universidad de Santiago de Compostela, pp.99-125.
- Egg, M. (2005) *Flexible Semantics for Reinterpretation Phenomena*, Stanford CA: CSLI Publications.
- Fábregas, A. and R. Marín (2017) "On non-dynamic eventive verbs in Spanish," *Linguistics*, 55(3), pp.451-488.
- García Fernández, L. (2009) "Semántica y sintaxis de la perífrasis <estar + gerundio>", *Moenia*, 15, pp.245-274.
- García-Pardo, A. (2017) "Aspect and argument structure in adjectival passives", *Borealis*, 6 (1), pp.21-52.
- Gili Gaya, S. (1980) *Curso superior de sintaxis española*, Barcelona: Biblograf [1. ed. publicado en 1943].
- Gómez Torrego, L. (1988) *Perífrasis verbales. Sintaxis, semántica y estilística*, Madrid: Arco/Libros.
- Igarashi, Y. and Gunji, T. (1998) "The temporal system in Japanese." In Gunji, T. & Hasida, K. (Eds.), *Topics in Constraint-Based Grammar of Japanese*, pp.81-97. Kluwer, Dordrecht.
- Maldonado, R. (2006) "El gerundio español como progresivo estático. Análisis cognosci-

- tivo”, *Revista Española de Lingüística*, 35 (2), pp.433-459.
- Martínez-Linares, M. A. (2015) “El disco está besado por Justin, la novela ya está leída: A propósito de las construcciones resultativas con estar”, *ELUA*, 29, pp.191-220.
- Mendikoetxea, A. (1999) “Construcciones inacusativas y pasivas”, en I. Bosque y V. De-monte, *Gramática descriptiva de la lengua española*, Espasa Calpe, pp.1575-1629.
- Mittwoch, A. (1991) “In Defence of Vendler’s Achievements, *Perspectives on Aspect and Aktionsart* (= *Belgian Journal of Linguistics* 6), C. Vetters and W. Vandeweghe (eds.), Bruxelles: Editions de l’Université de Bruxelles, pp.71-85.
- Mourelatos, A. (1978) “Events, Processes, and States,” *Linguistics and Philosophy*, 2, pp.415-434.
- Pustejovsky, J. (1991) “The syntax of event structure,” *Cognition*, 41, pp.47-81. [Repub-lished in *The Language of Time: A Reader*, I. Mani, J. Pustejovsky, and R. Gaizauskas (eds.), Oxford University Press, 2005, pp.33-60].
- Ramchand, G. (2008) *Verb meaning and the lexicon: A first-phase syntax*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Ramos, M. (1972) “El fenómeno de «estar + siendo»”, *Hispania*, 55, pp.128-131.
- Rothstein, S. (2004) *Structuring Events*, Blackwell Publishing.
- Roca Pons, J. (1958) *Estudios sobre perífrasis verbales del español*, Madrid: Consejo Su-perior de Investigaciones Científicas.
- Smith, C. (1997) *The Parameter of Aspect*. Dordrecht: Kluwer. [1. ed. published in 1991]
- Vendler, Z. (1967) “Verbs and Times”, *Linguistics in Philosophy*, Ithaca, N. Y.: Cornell University Press, pp.97-121. [1. ed. published in 1957]
- Yllera, A. (1999) “Las perífrasis verbales de gerundio y participio”, en I. Bosque y V. De-monte (eds.), *Gramática descriptiva de la lengua española*, Espasa Calpe, pp.3391-3442.
- ASALE = Asociación de Academias de la Lengua Española (2009) *Nueva gramática de la lengua española*, Barcelona: Espasa Libros, S. L. U.
- 高垣敏博 (2000) 「〈estar + 過去分詞〉と〈テイル〉文－結果相解釈をめぐる－」『日本語と外国語との対照研究 VI 日本語とスペイン語 (3)』, pp.67-93, 国立国語研究所.
- (2014) 「〈estar + 過去分詞〉構文」『スペイン語の受動文－事象構造の視点から－』東京外国語大学, pp.123-157.
- 山村ひろみ (2001) 「Estar siendo について」『Studies in Languages and Cultures』14,

進行中のイベントを表す《estar + 過去分詞》の分析（手塚）

pp.143-168.

資料体

CREA = REAL ACADEMIA ESPAÑOLA: Banco de datos (CREA) [en línea]. Corpus de referencia del español actual. <<http://www.rae.es>> [13/12/2022]

CORPES = REAL ACADEMIA ESPAÑOLA: Banco de datos (CORPES XXI) [en línea]. Corpus del Español del Siglo XXI (CORPES). <<http://www.rae.es>> [13/12/2022]

Sketch Engine. Spanish Web 2018 (esTenTen 18). <<http://www.sketchengine.eu>> [13/12/2022]

グロス

1	1 人称	FEM	女性	PAST	過去
2	2 人称	FUT	未来	PL	複数
3	人称	GERUND	現在分詞	PRES	現在
ACC	対格（目的格）	IMP	命令	REFL	再帰代名詞
ART	定冠詞	INDEF	不定	REL	関係代名詞
COMP	補文標識	MAS	男性	SG	単数
CONJ	接続詞	PART	過去分詞		